２０２２年度第２回地域会議　議事概要

2023 年 3 月 3 日（金)、青森市内において地域会議を開催しました。

当会議は、日本原燃㈱が地域の皆さまから信頼していただける企業となることを目指し、弊社経営層が直接地域の皆さまのご意見やご指摘などをお伺いして、事業活動に活かしていくことを目的に開催しているものです。

【委員】

議長	佐藤　敬	様	青森中央学院大学　学長
	芦野　英子	様	エッセイスト
	上長根　浅吉	様	㈱浅工務店　代表取締役
	菊池　としえ	様	六ヶ所村女性団体連絡協議会　会長
	北村　真夕美	様	㈱青森経営研究所　代表取締役社長
	武輪　俊彦	様	武輪水産㈱　代表取締役社長

【議事次第】

１．社長挨拶

２．議題説明

「原子燃料サイクル事業の現状について」

３．意見交換

【議事概要】

◆社長挨拶

本日は年度末のお忙しいところ、今年度２回目の地域会議にご出席いただき、また、日頃より委員の皆さまには、当社事業に対しご理解とご指導を賜り、厚く御礼申し上げる。

本日の会議では、当社事業の現状を再処理事業中心にご説明するが、１月に「再処理事業所構内での消防車両の火災」、２月に「再処理工場での IAEA 査察カメラによる監視の一時中断」と２つのトラブルを発生させ、皆さまにご心配とご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げる。これらの事象の原因をしっかり究明し、再発防止対策を講じていく。

今後とも安全を最優先に、原子燃料サイクルの一日も早い確立に向け、全力で取組んでいくので、引き続きご指導賜りたい。

本日は、忌憚のないご意見・ご提言をいただきたく、お願い申し上げる。

◆意見交換概要

【テーマ】

・再処理工場のしゅん工時期の見直し、しゅん工・操業に向けた取組み、トラブル対応等について

意見交換の様子

【委　　員】　トラブルなどがニュースになる度に「またか」と感じる。「また」をなくしてもらいたいと思う。人がやることだからトラブルはあると思うが、教育などを徹底し、これからも頑張っていただきたい。

【委　　員】　全消灯による再処理工場での IAEA 査察カメラによる監視の一時中断という、あってはならないことがあった。工場が建ってから 20 年以上経過し施設が老朽化しているところがある。これからも同様な事象が起こる可能性はある。その辺を十分に考慮して、事前に対応をとっていただきたい。

私は自分の目で現場を見て、その場で悪いところがあれば指摘をする。人間はプレッシャーをかければかけるほど動きが悪くなる。その結果、トラブルが起こることもある。あまりプレッシャーをかけすぎても良くないと思う。作業をする方々には、余裕を持った環境の中で働いていただき、現場がプレッシャーを感じない、動きやすい現場を作っていただければと思う。

【委　　員】　人間だから100％ミスがないようにというのは難しい。私は食品加工をやっており、影響は全然違うが、人体に影響を及ぼすという可能性もある。管理がどうあるべきかについて指導を受けながらやっている。ＨＡＣＣＰ（ハサップ：衛生管理方法）は、食品をどうすれば安全に保てるかというもので、重要管理点を決めて、どこを一番確実にやらなければいけないかを決めながら、大事故につながらないポイントを押さえる。そこに問題があるときにはどう対処すべきかを事前に決めておき、それに則って行動してくださいというように定めている。今回の照明切れはよくないが事故につながるものではない。監視ができなかったことは指摘されても仕方ないが、重大事故が起こらない体制を踏まえておけば良いのではないかと思う。

【委　　員】　原燃のふれあい交流会が六ヶ所村内５地区で開催されたとあるが、人が集まるのか気になる。例えば泊地区は、ふれあいセンターに来てくださいというチラシを撒いているが、他に魅力のある呼びかけ方があるのではないのかと思う。

また、コロナ禍でできていないが、全戸訪問であれば直接社員の顔を見て会話ができる。一方、地域の方が泊のふれあいセンターまでわざわざ行くことはなかなか難しいので、実施方法をもう少し工夫したほうが良いと思う。

げんねん地域大使について、どのように大使の方が活躍しているのか、社長にどのように大使が報告しているのかお聞かせ願いたい。私どもは社長とお会いする機会があまりない。社長が赴任した際に女性団体に講演をしていただいて以来、社長にお会いしていないという方もいる。もう少し距離を近くしてもらえないかという声もあるのでご配慮願う。

【委　　員】　IAEA の査察カメラの監視が一時中断した問題はとても残念。以前、IAEA の封印を切ってしまったということもあった。新聞には、照明器具が古く、球切れを見過ごしてしまっていた、交換部品が簡単に入手できなかったと載っていた。会社として交換部品を置かないのか気になった。

高レベル廃液ガラス固化建屋での安全冷却機能が一時喪失した問題は、作業ミスで仕切弁を間違えて閉止してしまったとのことだが、現在は、建設業でもオペレーターの運転席を見ると、絵で全

部表示されていて、子どもでも、外国人でもわかるようになっている。是非、わかりやすくした方が良いのではないかと思った。

残念ながら労災事故が多発しているということだが、何か原因があるのではないか。原因究明をされているとは思うが、職場の雰囲気や、働く環境、精神的にも、それぞれの分担、エリア、区画された仕事の領域の中で、もしかしたら強い締め付け、パワハラのようなものなど、ありはしないだろうか。楽しくない、面白くないという雰囲気が、現場に広がっているのではないか。高齢の労働者も多いと思うが、十分に柔軟体操をして怪我のないようにしていただきたい。

それから、フランスでの研修内容、研修期間、参加人数など時間があれば伺いたい。

【委　　員】　社員の農業体験を実施しているとのことだが参加者の意見はどうか。例えば、泊地区の海岸で天気の良い日にふのりを採る日がある。船に乗る危険もない。ふのり採りを知らない社員も多いと思うのでやってみてはどうかと思う。農業もふのりもとても大事。農業だけでなく漁業も企画していただけたら良いと思う。

【委　　員】　日本原燃のこれからの考え方を伺いたい。例えば、再処理工場のしゅん工について、2024 年度上期のできるだけ早期に完了させるという意気込みだと思うが、原燃の工事がほとんど終わるということも考えられる。先の見える仕事、今後の見通しを聞かせていただきたい。

【当　　社】　まず IAEA のカメラの件について、使用済燃料は原子力発電所から運ばれ、使用済燃料貯蔵プールの中に保管される。そこから１体ずつ燃料を取り出して、せん断機に運び、せん断する。燃料が入っている貯蔵プールから、使用済燃料を空気中に出して横に倒すが、それを行う部屋が今回の部屋で、ここでは燃料がむき出しになるので人が立ち入れない部屋。IAEA は、常に監視カメラで見ながら、燃料が勝手に移動されていないか確認している。この部屋の照明が全て消えてしまった。普段は人のいる場所ではないため、窓からのぞき込む形で照明が付いているか程度しか確認していなかった。次に、なぜ照明が切れた状況だったのかということについて説明する。ナトリウムランプは今も世の中にはあるが、ここで使用して

いるサイズのナトリウムランプは製造中止になっている。取り替えることは手順が決まっていて、数時間あればできる作業であるが、今は動いていないということもあり、残りの照明がついていれば十分だと勝手に思っていたのが実態。IAEA のカメラに影響がないようにしなくてはいけないこと、現場で作業する部署と両方の仕事がマッチしてでき上がらないといけない。それが我々の反省すべき点だと思っている。その横のつながり、どうあるべきで何をどうするべきか、というのをきちんと理解したうえで仕事をするということで見直そうと思っている。

【委　　員】　カメラ自体を真っ暗でもきちんと映るものに入れ替えるというのは難しいのか。

【当　　社】　カメラは IAEA が査察のために付けている。堂々と現場を見てくださいと言うのが正しい姿だと思う。先方が持って来たものはそのままにするし、我々はそれが常に監視できるようになっていれば良いと思っている。IAEA はカメラだけでなく、センサーもつけている。燃料が移動されれば、このカメラ以外でもきちんと検知される。少なくとも、燃料プール側にもカメラがついているし、作業をしたらきちんとわかるようになっている。ただ、２時間監視できなかったことは、世の中に対する我々の姿勢としてまずかったと思う。今後はしっかりとやっていく。

次に、げんねん地域大使と私自身について、私がこちらに来て思ったことは、日本原燃の特長は地域に根付いているところ。原子力発電所よりもはるかに日本原燃は地域に密着していると思っている。地元出身の社員が大勢いる。私が安全と言っても通じにくいと思うし、皆さん思っていることをおっしゃってくださいと言ってもなかなか言ってくれないことが多い。こういう会議の場で話していただいているのでありがたいが、やはり地域で子どもの頃から育った人が、会社の状況を話してもらった方が、私が言うよりもはるかに説得力があると思っている。地域の行政区ごとに大使になっていただいて、なるべく地域の行事に参加し、我々のことを説明するというよりも、聞かれたことにお答えする。どんな要望があったかなどを私に伝えてほしいという形で行動してもらっている。今はコロナ禍なので皆さん集まりはないが、お祭りなどに参加してこんな意見がありましたとか、こんな質問があったのでこう答

えましたとかということが私に共有されている。これを続けることで地域の方々に、我々の活動も見ていただけるし、地域の皆さんが何を気にされているのかを知ることができると考えている。その他、大使には、スポーツなど教えている人やいろいろな人がいるので、そういった人たちが地域やグループの活動の中で聞いた声を会社の活動に活かしていこうと思っている。

【委　　員】　コロナでお祭りがなかったため、日本原燃の社員の姿が見えなかった。今年は、泊地区のお祭りもあるし、若い社員の方がお神輿を担いだり、山車を引いたり、積極的に地域の中に入って来てもらいたい。そうすると、地域の方とのコミュニケーションの場ができ、非常に良い関係になると思う。

【当　　社】　３．１１（東日本大震災）当時、私は福島におり、地域の方との関係もよく、一緒にやっていたつもりだが、やはり、震災で全く変わった。その後、福島第一原子力発電所の廃炉も含めて、地域の方々がどういうことを望んでおられるのか、おこがましいかもしれないが、どういう会話をするのが良いのか、だいぶ勉強したつもりだ。それを六ヶ所村でやりたいと思っている。私自身、ここ２、３年はコロナであまり出なかった。要請があれば伺わせていただきたいと思っている。

【委　　員】　よろしくお願いする。

【当　　社】　地域大使は、例えばお祭りであれば、社内で周知してボランティアで参加しようとか、皆でやっている。引き続きそういう方法でいろいろなところに顔を出していきたいと思う。

【委　　員】　是非お願いしたい。原燃の社員の顔が見えないとの声がある。どんどん声掛けしてもらえればと思う。

【当　　社】　六ヶ所村内の全戸訪問がコロナの影響で今はできていない。今後、全戸訪問で社員がお宅にお邪魔することで、社員の顔が見えるのではないかと思う。

【委　　員】　全戸訪問があった時は社員の顔がわかる。コロナで行われていな

いので余計に顔が見えなくなったと思う。例えば、原燃がトラブルを起こしても誰も言わなくなる。それが、より危険な状態と私は感じている。トラブルの記事が載っている新聞を見たかと聞いても、知らないといった感じ。それは原燃に目を向けていないという証拠。それはまずいなと思っている。

【当　　社】　先ほど農業体験の話をされたが、農業体験では、新入社員は六ヶ所村などで、長芋の種芋堀をお手伝いすることなどを通じて、農業の方がどういうことをやっているのかを学び、農家の皆さんと交流させていただいている。また、りんごの収穫などのボランティアも実施している。

【委　　員】　是非、泊の海岸にも来ていただきたい。漁業の体験もしてほしい。

【当　　社】　漁業関係のボランティアも実施できればと考えている。まずは海岸の作業からお手伝いができることがあればと考えている。改めてご相談させていただく。

【当　　社】　労災について、昨年末から３件、続けて発生させてしまった。直接的な原因、それから、実質的な要因含めて、私が直接現場を見て思っていることは、今回３件とも非常に狭いところの作業で、特に１件目２件目は、細いマンホールのようないわゆる狭隘部での作業である。３件目は、水密扉を台車に載せて運んで行った作業で、その水密扉は 800 kgあり、横にしては持って行けないような狭隘部で、これに対する工事前の想像力がしっかりと頭になかった。その危険認識をすればしっかりと対応ができただろうと思っている。そういう意味では、ご指摘のとおり職場の環境について、こういうところが欠けていて、そういうところを我々がしっかり見るというところの手順が抜けていた。その辺をしっかり踏まえて再発防止に努めていく。

また、環境の中で、締め付け、パワハラとのご質問だが、先日、ハラスメントに関して、社外の方から、最近の情勢やハラスメントをなくすためにどういう方策があるかなど教えていただいた。ハラスメントをなくすためにハラスメントはどういうものか理解するとか、ハラスメントが起こると何が起きるか理解することも大事である。社外の方のご指摘はコミュニケーションであった。やは

りコミュニケーションがうまくいっていれば、そういうハラスメントというのも生まない。もし誤解があった時に修復することが非常に簡単になっていくだろうと。そういうところも気をつけていきたいと思う。

【委　　員】　相手のあることなので、難しい。

【当　　社】　いろんな人間がいて、やはり誤解もあるし、いろいろな食い違いがある。我々自身、しっかりと進めていきたいと思う。また、委員からお話があった、ふのりは、当社社員食堂の味噌汁で提供しており、青森県産のふのりを使っている。非常に人気のある食材で私も必ずそれを飲ませていただいている。地元産の食材の消費を会社として積極的に取り組んでいる。

【当　　社】　現場の話だが、委員がおっしゃったとおり、制約すれば動きが悪くなる。そのとおりだと思う。過去にトラブルが起こった時は、これをやります、あれをやりますと、どんどん増やすばかりのルールを作っていったので、そうすると、働く人は縮こまって、箸の上げ下ろしまで言われてしまうので、逆に怪我が増えたりすることもあると思う。まずは、不安全な環境、狭い場所だったらどうするのか、あるいは足場が少しおかしくなっているなら、きちんと直してあげるとか、そういう不安全な環境をなくして、安全に働きやすい職場を作ることを我々がやらなくてはいけないと思っている。

フランスの研修の状況について説明する。シェルブールから２時間ほど西側に行ったところにラ・アーグという場所がある。ドーバー海峡があってイギリスの対岸側にあるような場所で、そこでは今、日本原燃の再処理工場とほとんど同じ工場が運転している。その運転のメンバーの中に入れてもらっている。

１回の研修で 10 人位が約１ヶ月の期間、使用済燃料を使うところから、燃料を切った後など、いろいろな工程があるので、そのブロックごとのチームの中に入って、三交替勤務で研修している。当社でのシミュレーター訓練では、今ある廃液を安全に扱う際の訓練になるが、フランスでの研修は、本当に燃料を切って落ちる音が聞こえたとか、これで実感したとか、自分たちの運転もこうするんだと、そういった声が入ってくる。研修は、若い社員を中心にトータルで４班延べ 47 人に行ってもらっていた。工場には約 350 人の運

転員がいる。半分は元々行ったことがあるが、100 人位は行ってない人がいる。行きたいと言う人がいれば、派遣しようと思っている。しっかりフランスで勉強するのも大事なので続けていきたいと思っている。フランスでは、ホテルのような所に泊まって、食事などは自分たちで作っている。週末はありがたいことに、フランス人が家庭に招いてくれたりして、地域の方と一緒になって生活しているのでとても良い経験だと思う。

【委　　員】　以前、弘前にラ・アーグの人たちが来た。私はその時の会合の司会をやった。地元の高校生も交えて、いろいろな話をしてくれた。

【当　　社】　交流というのは大事だと思う。

【委　　員】　私もフランスの工場に行ってきたが、工場は日本原燃の方がきれいだと感じた。

【当　　社】　現場を見て、きれいですねと感想をいただくのは、すごくうれしい。隅々まで行き届いているということだと思う。フランスは、何年位前に行かれたのか。

【委　　員】　まだ六ヶ所村から研修に行ってない時代ですから、15～16 年前のこと。かなり前の事だが、村の何人かで訪問した。

【委　　員】　私は、その時、日本原燃も見たが、いつもきれいだなという感じがすごくあったので、意外に感じた。きれいに整頓されていることは、物事もきちんとしていると感じる。

【委　　員】　色々ご意見いただいて、また、ご説明いただき感謝申し上げる。
　私は、日本原燃は、いつも粛々と説明しておられ、その姿勢は本当に評価できるのではないかと思う。これからも丁寧な対応をお願いしたい。前例のないことに取り組んでおられるので、他業種とか参考にならない部分も多いのではないかなと、勝手に想像している。やはり最悪を想定したリスクマネジメントというところが会社の前提だと思う。事前に予防策というのを作りにくいと思うが、消防車の火災も貴重なサンプルだと思うので、しっかりと経験

を残していただければと思う。それから、リスクマネジメントに対応したトレーニングもご説明いただいた。事故の時には、やはりいちばん物を言うのはアナログだ。

今後も、そればかりではないとは思うが、近代的な設備に加えてアナログ的なところも、是非続けていただきたいと思う。

地域活動についてもここ数年はなかなか思うように行かなかった部分はあったかと思うが、施設の見学について一昨年の秋から、デジタルコンテンツを導入されたということ、これは今後、非常に有効な手段になっていくのではないか思うので、どうぞ引き続き活かしていただきたい。さらに一段階ステップアップした地域活動、広報活動に努めていただきたい。

やはり人間のやることなので、どうしてもミスは少し出る。その時の対応を公表する、オープンにしていくことが信頼感の元になると思っている。

今後とも、しっかりとした姿勢で臨んでいただければと思っている。

以　上